

育休中の収入 知っていますか

「育休」を考え始めたとき、仕事の忙しさ、職場の理解と並んで気になるのが収入です。女性に偏りがちな負担を減らすためにも国は男性の育児休業取得を促していますが、先立つものが不透明なのは不安です。どれほど制度で補われるのか。専門家の助けを借りて計算してみました。

育児休業の基本

- ・男女問わず取れる
- ・働き手が希望したら会社は拒めない
- ・会社の賃金がない代わりに、雇用保険から一定の給付金を受け取れる

(例)月給30万円の人が6カ月の育休を取る場合
ファイナンシャルプランナー大竹麻佐子さんへの取材から



会社に雇われる人は基本的に、子どもが1歳(保育園に落選するなどしたら最長2歳)になるまで育休を取れる。育児・介護休業法で決まっている。会社は原則拒めない。育休を理由に会社を辞めさせることも禁止だ。

ただし会社を休むと通常、賃金が出ない。そこを補ってくれるのが、国の制度である雇用保険の「育児休業給付金」だ。会社と労働者が折半で払う雇用保険料が原資。保険料を一定の間、払うなどの条件を満たせば受け取れる。給付金は育休中の2カ月ごとに勤務先を通じ、ハローワークに申し込む。給付金の計算に必要な給与などの情報を会社が持っているからだ。

それでは、いくら受け取れるのだろうか。月給30万円のAさんが半年間の育休を取る想定し、ファイナンシャルプランナーの大竹麻佐子さんに月額を概算してもらった。

育休の開始から半年間は、普段の賃金の67%(7カ月目以降は50%)の給付金が払われる。普段の賃金は、休業前の半年間の賃金を合計した金額を、1カ月30日換算の180日で割って日額を出す。残業などを含む額面の金額で、ボーナスは含まない。Aさんの場合、6カ月分の賃金180万円÷180日=1万円だ。給付金は、1万円の67%の30日分で20万1千円になる。

カバー率67%ときくと、少なく感じるかもしれない。ただし給付金は非課税だ。健康

雇用保険から給付金

半年間は賃金の67%

保険や年金のために払い込む社会保険料、所得税が天引きされた手取りベースの賃金とくらべると、カバー率はもう少し高くなる。

2カ月ごと支給

Aさんの場合、普段は約5万円が天引きされるから実質、約8割のカバー率になる。育休中は社会保険料を払わないことになるが、将来の年金受取額には影響しない。

注意が必要なのは、住民税

は育休中も納めることだ。住民税は前年の収入にもとづいて計算されるためだ。住民税が減るのは次の年になる。

また、支給は2カ月に1度だ。はじめて給付金を受け取るのが育休開始の約2カ月後というケースもあり、生活費を備えておく必要がある。

大竹さんは「貯金の取り崩

男性取得率まだ7・48% 制度の認知課題

厚生労働省によると、2019年度の男性の育児取得率は7・48%にとどまる。取得率アップの切り札にしたい給付金だが、認知不足が課題だ。同省による18年度のアンケートでは、妊娠がわかったときに給付金を知ったという女性は8割超だったのに対し、男性は約5割だった。

建設機械メーカーのコマツで働く男性(38)は第2子の誕生後、「家事と育児で専業主婦の妻がオーバーワークになってしまっ」と考え、19年10月から半年間、育休を取った。育休を考え始めたときは「収入がどうなるのか心配だ

し方など、育休中の生活費をどうするかを、出産前の余裕がある時に夫婦で考えてほしい」と助言する。産後は育児に追われるからだ。自分の財布をそれぞれ管理してきた夫婦が「家のお金」について考え出す契機にもなるという。

企業によっては、福利厚生で独自の育休手当を設けているところもある。その金額によって給付金が減額されたり、育休の取得時期によって社会保険料の扱いが変わったりすることもある。くわしくは勤務先に尋ねてほしい。

収入がどうなるのか心配だ

サイトで試算も

じぶんの給料では給付金がいくらになるのか、簡単に試算できるウェブサイトもある。「育児休業給付金シミュレーター」(<https://yasu-mo.me/ikusim/>)はその一つだ。

制作者はIT企業に勤務する伊美裕麻さん(30)。自身も約2年前に計1年4カ月の育児を取ったが、「以前は給付金がもらえとは知らず、育児を取る選択が頭になかった」。給付金の存在を知っても試算に苦労したことがき

かけで、「ボタン一つでわかればいいのに」と思い立ち、仕事の合間をぬって個人的に開発したという。

給付金を計算できても一時的に収入が落ちるのは避けられない。注目するのは収入だけではないのか——。そんな問題意識も芽生えた。そこで普段の労働時間と通勤時間を入力すると、育児の取得でどのくらい子どもと過ごせる時間が増えるのかがわかる機能も付け加えた。

たとえば1日の勤務に8時間、通勤に往復2時間かける場合、シミュレーターでは半年間の育児を取れば子どもとの時間が1200時間増えると算出される。伊美さんは「取り戻せない時間が具体的に数字でわかる。そうすればその時間がどれだけかげがえなくて、育児を取らないのはもったいない、と思えるようになるはず」と期待する。

(滝沢卓)